

新潟県植物分布資料 (6)

石 沢 進・朱 雁

2006年の調査で新潟県に新たな分布の追加を以下に掲載する。

[略号] IS:石沢の標本;TY:登坂裕一、IS・TY-後の数字は標本番号で新津資料室に保管;('06):2006年の標本採集年あるいは写真撮影年;Photo:写真資料;Photo-後の数字は写真ネガ番号あるいはデジカメ撮影番号;[8桁の数字など]:地形図座標(環境省3次メッシュマップあるいは5万分一地形図番号)

*新潟県分布新記録

サジラン *Loxogramme duclouxii* Christ ウラボシ科

佐渡市真野竹田川ダム 蛇の河内沢:中川清太郎 [IS-411321('06);Photo-060718-11~16],[河原田 5638-73-30]

本種は中川清太郎氏により分布が発見され、真野町町史記載済みであるが、2006年同氏の案内で生育地を確認したので記録する(詳細は31頁参照)

アカバグミ *Elaeagnus maritima* Koidz.

阿賀野市笹神女堂<沢口道> 8m:加藤泰助 (IS-411986・413664 '06; Photo-060810-1~3・6・7・M061019-4~13・3648-0A・1A~3A)

佐渡市元小木(矢島北)50m: 中川清太郎('60 IS-412107・412108, Photo-06826-22・3635-22・23)

本種は、ツルグミとオオバグミの中間形または雑種とみられているが、加藤泰助氏により越後の笹神での分布が初めてである(写真1)。笹神の生育地では両種の分布がない地域であり、アカバグミだけが隔離状態で分布しているので、分布上から興味深い。離島の佐渡では、中川清太郎氏の発見によるが、ツルグミとオオバグミが共存しており、両種の中間と思われる個体が生育している。これまではっきりして記載がないので、ここに新記録として掲載する。

[帰化植物]

オオカナダオトギリ *Hypericum majus* (A.Gray) Britton オトギリソウ科

新潟市柳島町歴史資料館 2m: IS-411667('06 Photo-3637-21A・22A・23A・24A)[新潟 5639-70-14] (写真2)

ペラペラヨメナ *Erigeron karvinskianus* DC. キク科

新潟市柳島町歴史資料館 2m: IS-411582・411668('06 Photo-M060725-1・2・3)[新潟 5639-70-14] (写真3)

花が美しいので、花壇に導入されることもあり、歴史資料館の周辺の庭木を植栽された場所であることから移植の可能性がある。しかし、一旦植栽するとそれから広がることもある。

*新潟県分布追加記録

ミズドクサ *Euisetum flubiatile* L. トクサ科

中魚沼郡津南町谷内 440m: 内山 緑('06 IS-412570, Photo M060911-67・68・69・70)[苗場山 5538-35-70] (写真4)
津南町谷内池には、ミズドクサが群生しているが、ここから2~300m離れた湿地にも本種が内山緑氏により確認された。分布地点の少ない種であるので、その生育地を追加する。

イノモトソウ *Pteris multifida* Poir. イノモトソウ科

新潟:五泉市村松愛宕山 30m: IS-414217 ('07 Photo 070121-102~106)[新津 5639-41-25] (写真5)

愛宕山の公園内にある石垣の間に生育し、胞子をつけるまで大きくなった個体もある。また、まだ胞子をつけるまで大きくなっていない幼体が多数生えている。

ハマナデシコ *Dianthus japonicus* Thunb. ナデシコ科

佐渡市相川稲鯨新田 2m: 中川清太郎('06 IS Photo 060717-61~78)

中川清太郎氏により以前に分布が確認されていたが、2006年に現地の生育状況を見ることができたので、ここでは分布追加記録として掲載した(写真6)。この集落の海岸に広く分布し、白花の個体も多くあり、群生している

が、抜いて破棄された個体もあり残念である。本種は新潟県絶滅危惧Ⅰ類(E N)であり、生育地を大切保護したいものである。

コミカンソウ *Phyllanthus urinaria* L.

トウダイグサ科

阿賀野市笹神勝屋 1361 <加藤泰助氏>宅 8m: 加藤泰助('06 IS-413665, Photo 061019-15・16・17, M061019-10・11, 3648-5A・6A・7A) [新発田 5639-62-04]

加藤泰助氏の自宅の庭に生育し、以前から生えていたといわれている。県内の記録が明らかでなく、また笹神の植物誌 [笹神村史資料編 5 自然(2002)] にも記録していないので、ここに追加する (写真 7)。

オニイタヤ *Acer mono* Maxim. var. *ambiguum* (Pax) Rehder

カエデ科

佐渡市真野竹田川ダム 蛇の河内沢 270m: IS-411333('06) [河原田 5638-73-30]

佐渡ではこれまで日羽茂町と旧小木町に分布が記録されている (尾崎 1986) が、真野の分布を追加する。

ヒメヨツバムグラ *Galium gracilena* (A.Gray) Makino

アカネ科

佐渡市真野合沢 60m: IS-411342('06); Photo-060718-21・22] [河原田 5638-73-30]

本種は、新津、阿賀野川流域、県南部の妙高高原町などに分布している (小林巳癸彦 1985) が、佐渡の分布を追加する (16頁参照)。

イヌノフグリ *Veronica didyma* Tenore var. *lilacina* (Hara) Yamazaki

ゴマノハグサ科

東蒲原郡阿賀町鹿瀬馬取 150m: IS-410282 ('06 Photo 060428-48・49・50, 3609-11・12・13)

県内における本種の分布は、明らかでないが、馬取りのように集落のやや乾燥する立地に生えているようである (写真 8)。

イトトリゲモ *Najas japonica* Nakai

イバラモ科

五泉市村松 刈羽 50m: IS-413617 ('60 Photo-3647-2A・3A・4A) [久原泰雅氏の案内による]

佐渡市金井大和唐崎堤 52m: IS-413331('60), (渡辺洋子氏観察記録)

佐渡市小佐渡地区: IS-413317('06 Photo 060826-68~68) [赤泊 5638-73-02]

村松の生育地にはスプタ、ヤナギスプタ、ミズオオバコ、ホッスモなど水生植物があり、その観察で現地を訪れた際に確認した (写真 9)。また佐渡にも分布している。

長野県下水内郡栄村今泉 350m: IS-413565('06)

隣県の長野県にも分布することを確認した。

ヒロハノドジョウツナギ *Glyceria leptolepis* Ohwi

イネ科

三島郡出雲崎町稲川エコパーク 50m: IS-411445('06 Photo-060722-6・7) [出雲崎 5638-25-14]

本種はこれまで旧地名で北魚沼小出町、南魚沼六日町・塩沢町・湯沢町、中魚沼津南町、古志郡、西頸城郡など (池上・石沢 1985) ・糸魚川市山口 (池上・石沢 1986) などの記録があるが、県の中中部や北部に確認していない。出雲崎の分布は県の中中部にあたり、ここに追加する (写真10)。

イトハナビテンツキ *Blubostylis densa* (Wall.) Hand.-Mazz.

カヤツリグサ科

中魚沼郡津南町中子 450m: 中沢英正('06 IS-412564, Photo-M060911-55・56・3640-5・6・7・8・9)

長野県下水内郡栄村今泉 350m: IS-412553('06 M060908-1・M060911-42); 北野 (北野温泉) 460m: IS-412029-412552 ('06 Photo 060821-45~47)

本種は、新発田市、南魚沼郡湯沢町、中魚沼郡津南町反里口の他、長岡市に分布していることが、報告されている (池上・石沢 1985)。しかし、その後、湯沢町やその他の地域などで注目して調査したが、生育を確認できなかった。津南町では上記反里口の他、中沢英正氏により中子で新たに生育が確認されたので、追加記録する (写真11)。なお、津南町に隣接する長野県の栄村 2 箇所でも本種が生育している。



1-1 生育地[Aug.10,2006]

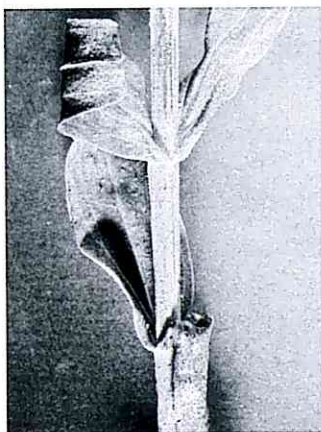


1-2 花[Oct.19,2006]



1-3 葉の表面 (×25で撮影)
[Aug.10,2006]

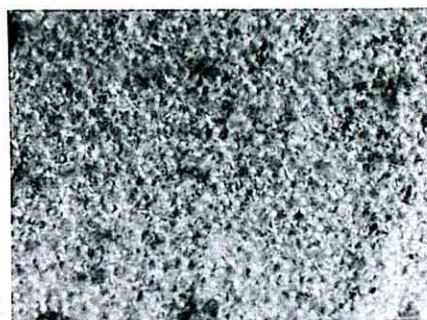
写真1 アカバグミ 阿賀野市笹神女堂<沢口道> 8m:加藤泰助



2-1 茎葉[July 27,2006]

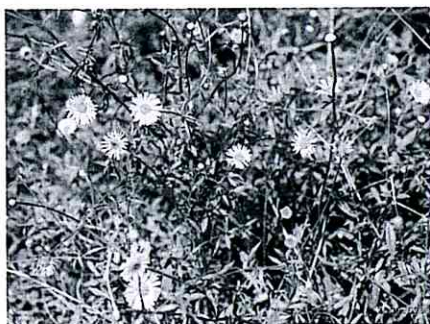


2-2 花[Aug.26,2006]

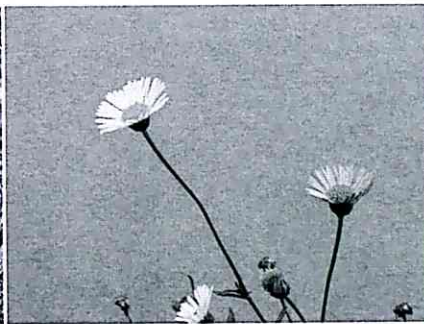


1-4 葉の裏面 (×25で撮影)
[Aug.10,2006]

写真2 オオカナダトギリ 新潟市柳島町歴史資料館 2m



3-1 群落[July 31,2006]



3-2 花[July 27,2006]



写真4 ミズドクサ 中魚沼郡津南町谷内
440m [Sept.11,2006]

写真3 ペラペラヨメナ 新潟市柳島町歴史資料館 2m



5-1 胞子葉を着けている個体



5-2 幼体の群生



5-3 一株

写真5 イノモトソウ 新潟:五泉市村松愛宕山 30m [Jan.21,2007]



6-1 大株 (赤花)

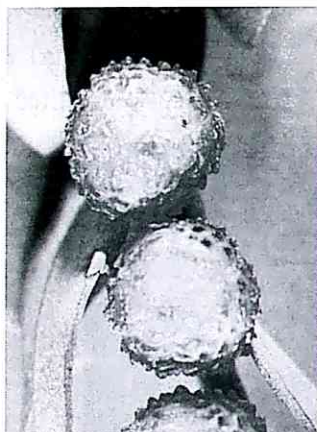
6-2 大株 (白花)

6-3 抜き取り放置

写真6 ハマナデシコ 佐渡市相川稲鯨新田 2m [July.17,2006]



7-1 生育状態



7-2 果実 (×16で撮影)

写真7 コミカンソウ 阿賀野市笹神勝屋 1361 <加藤泰助宅氏> 8m [Oct.19,2006]



6-4 花

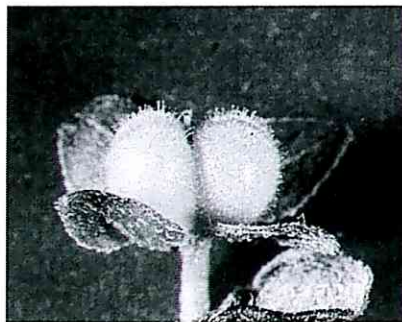


写真8 イヌノフグリ (×7で撮影)
東蒲原郡阿賀町鹿瀬馬取
150m [May.7,2006]

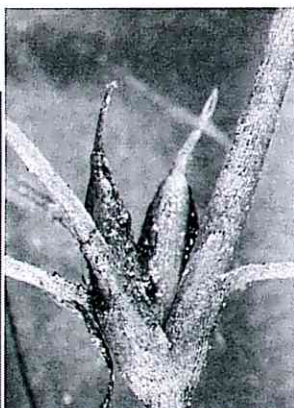
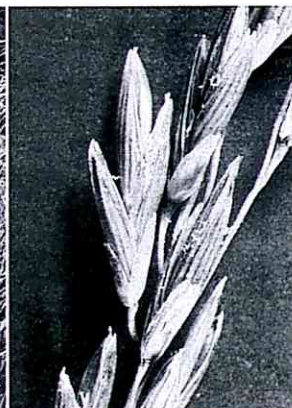


写真9 イトトリゲモ
五泉市村松刈羽
50m (Oct.13,2006)



10-1 群落

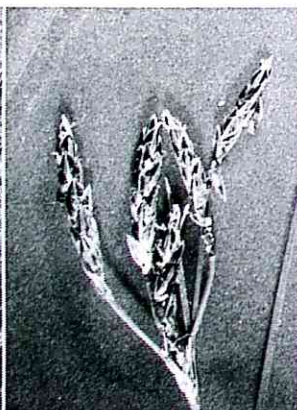


10-2 小穂 (×12.5で撮影)

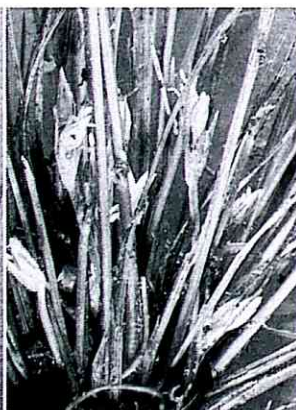
写真10 ヒロハノドジョウツナギ 三島郡出雲崎町稲川
エコパーク 50m (July.22,2006)



11-1 群落



11-2 小穂 (×7で撮影)



11-3 株元 (×7で撮影)



11-4 果実 (×50で撮影)

写真11 イトハナビテンツキ 中魚沼郡津南町中子 450m : 中沢英正 [Sept.11,2006]

* 植物の生態に関する知見

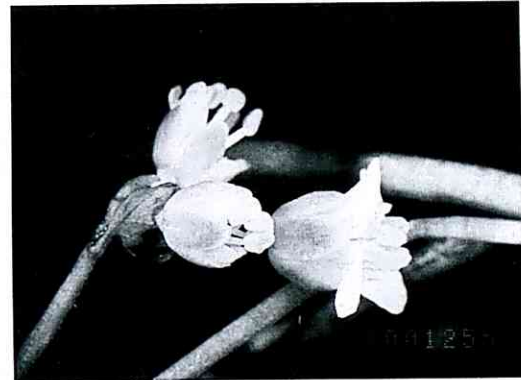
オオユリワサビの根茎

オオユリワサビ *Eutrema okinosimensis* Taken. は鱗茎が母体から離れることによって容易に栄養繁殖することが知られている(鳴橋・梅本・若杉 2000)。県内における生育地の群落について見ると、ワサビのように株としてまとまって生えることは少なく、散在して一定の面積を占有している。古い根茎の周りに新しい小さな根茎が増殖して広がっている。中には根茎が地下茎でつながり、無性的に栄養繁殖を行っている様子が観察できる。

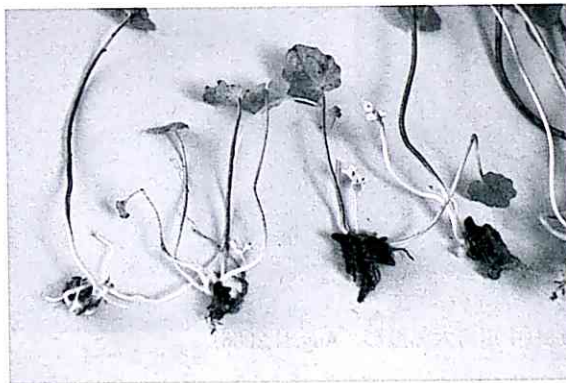
2006年の春にオオユリワサビの生育地へ調査にいった際、小区画の根茎を掘り出してみると、小さな鱗茎が地下部から多数出てきた。また、その鱗茎の中には、葉がほとんどどないのに花茎のついたものもあり、また、鱗茎の大小にかかわらず、多くの根茎に花茎が伸び出しているなど興味深い現象がみられた。鱗茎は、葉が数枚鱗片状に肥厚してユリ根のようになっているものもあり、中には肥厚した内側の鱗片の一部に雄しべが1本だけ着生したようなものもみられた。オオユリワサビにみられる一般的な花芽形成ではないような印象をうけた(写真12)。この調査地は、柿畑の縁であり、周辺の雑草を枯らすために、強烈な除草剤を散布したようであり、多くの草木が枯死していた。散布時地下に存在したオオユリワサビは、枯死には至らなかったが、除草剤の影響で生じた花芽形成の異常現象とも推察される。さらに詳細な調査が必要であるが、県内でも生育地の少ない植物であり、健全な状態での保存が望まれる。



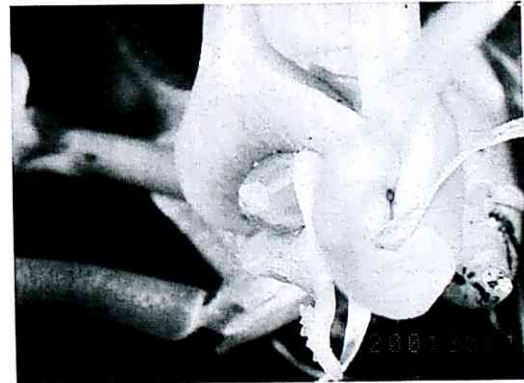
12-1 群落



12-2 分割した個体



12-3 少数の花ついている小苗



12-4 鱗茎の内側の鱗片に雄しべ1本が形成

写真12 オオユリワサビ(April.12,2006)

チョウジタデの呼吸根

呼吸根を持つ植物としてよく紹介されている植物にアカバナ科のミズキンバイが例として取り上げられている。新牧野植物図鑑(1989)の中にも「泥の中にある地下茎から時々白色の綿がふさふさした尾状の呼吸根を出す」と記されている。しかし、新潟県内ではミズキンバイが分布していないので、その呼吸根を見る機会がない。

ミズキンバイと同属のチョウジタデ *Ludwigia epilobioides* Maxim. には、特に同図鑑に呼吸根のことは記載されていない。すでに、詳しい報告があると思われるが、県内のチョウジタデで呼吸根の存在をはじめて観察したので、その実態を紹介する(写真13)。

佐渡市外山の田圃で水を張った泥の表面に白い尾状の物体が多数突き出っていて、菌類が繁殖しているとの印象を受けた。その実態を確認しないで、不思議な生物が存在するものだと写真を撮影し、その物体の一部を採取しただけで、

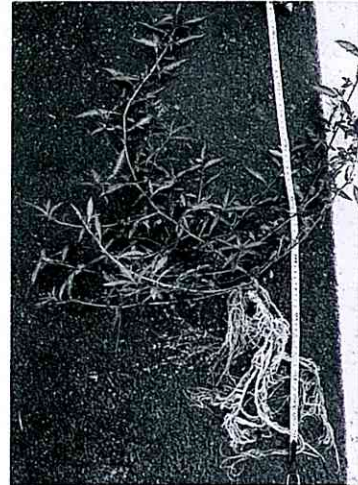
現地から離れて新潟に引き返した。その後、長野県栄村に調査にでかけた際に同じ菌類らしい物体と出会い、その正体がチョウジタデの根であろうと判断した。早速、佐渡の前回調査に同行の中川清太郎氏にお願いして外山のものがチョウジタデであることを確認して頂いた。また、同氏から草丈80cmにも及ぶチョウジタデの個体が郵送されてきて、その実態を確認できた。泥の表面に白い尾状の物体がチョウジタデの本体とつながっており、呼吸根とみることができると判明した。チョウジタデは県内至るところに生育しているので、その観察は容易に可能である。ただし、チョウジタデが田圃や沼など水を張った環境でないと観察することができない。

チョウジタデ：標本 IS-412119・412283('06 Photo 060826-52・53)

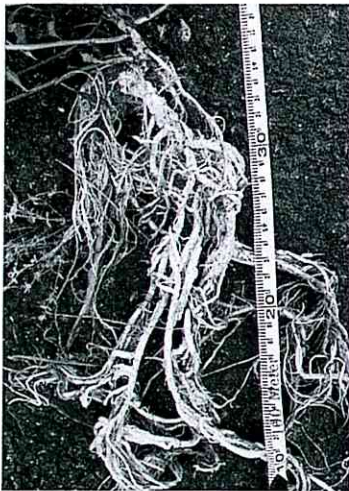
(観察に協力頂いた中川氏にお礼申し上げます)



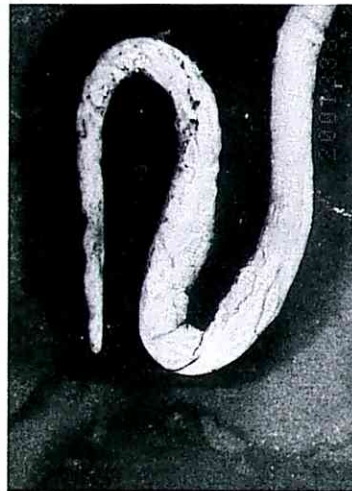
13-1 田圃の土壤表面に広がる呼吸根



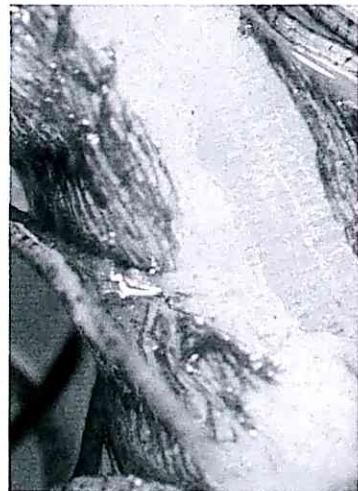
13-2 抜き取った1個体



13-3 地下部



13-4 呼吸根の一部



13-5 呼吸根の縦断面

写真13 チョウジタデの呼吸根(中川清太郎撮影、Aug.31,2006)

文献

- 池上義信・石沢 進 (1982) 新潟県植物分布資料 (2) 新潟県植物分布図集 第3集:376.
 池上義信・石沢 進 (1985) 新潟県植物分布資料 (5) 新潟県植物分布図集 第6集:442.
 池上義信・石沢 進 (1986) 新潟県植物分布資料 (6) 新潟県植物分布図集 第7集:400.
 池上義信・石沢 進 (1996) 新潟県植物分布資料 (16) 新潟県植物分布図集 第17集:128.
 石沢 進 (1978) 新潟県青海町黒姫山の植物. 169pp.新潟県西頸城郡青海町教育委員会石沢 進(2002) 吉田町史 資料編7 自然:235.吉田町
 小林巳癸彦(1985) ヒメヨツバムグラ 新潟県植物分布図集 第6集:307-308.
 牧野恭次(2000) 新潟県の羊歯植物誌.コーエイ印刷株式会社
 鳴橋直弘・梅本康二・若杉考生(2000) オオユリワサビ、その生活と分類学的位置. 植物地理・分類研究 48:141-148.
 尾崎富衛(1986) オニイタヤ 新潟県植物分布図集 第7集:205-208.